

## 1 研究主題

「学校安全に対する意識を高める指導方法のあり方～安全マップ作りを通して～」

## 2 主題設定の理由

本校2年生は新しい学習に対し興味関心が強く、与えられた課題に対しても積極的に取り組む姿が見られる。4月に進級し、2年生として小学校での生活にも慣れ、様々なことに意欲的に活動する姿が増えてきた。その一方で、未熟な点も多く不注意などで思わぬケガをすることが多い。

事前のアンケートでは64%（※1）の児童が安全の学習が楽しみであると回答していた。一方で安全に対する理解を計る設問では適切に回答できていない児童もおり安全に対する理解が不十分であることが分かった。そして、1年生の時に比べてケガをする回数も増えたと感じている児童もいる。

そこで今回、学校で安全に過ごすための意識付けを目的とし、児童自らの経験をもとに校内安全マップを作成することにした。

## 3 研究仮説

- ① タブレット端末を活用し、編集及び情報を共有することで安全に対する意識を高めることができるだろう。
- ② 1年生と安全マップをもとに校内を探検し、危険な箇所を1年生に対して説明することで、学校で安全に過ごすための意識を高めることができるだろう。

## 4 研究内容

今回の研究では対象児童を川上小学校の第2学年28名とした。事前にアンケートを実施し実態を調査した。学校でのケガを経験したことのある児童は64%おり、ケガした場所はグラウンドと体育館前のコンクリートという回答が多くあった。児童は自分が思う危ない場所をクロムブックのカメラで撮影し（※2）、保存、Google ジャムボードに写真を貼り付け校内安全マップを作成した（※3）。作成後、校内安全マップをもとにグループ間で情報を共有（※5）した後、1年生と校内を探検（※4）し、危険な場所を1年生に対して説明させた。事後アンケートを実施し、児童の意識がどの程度変化したか探ることとした。

※3 作成した Google ジャムボード



※2 撮影



※4 情報の共有



※5 校内安全探検



## 5 成果と課題

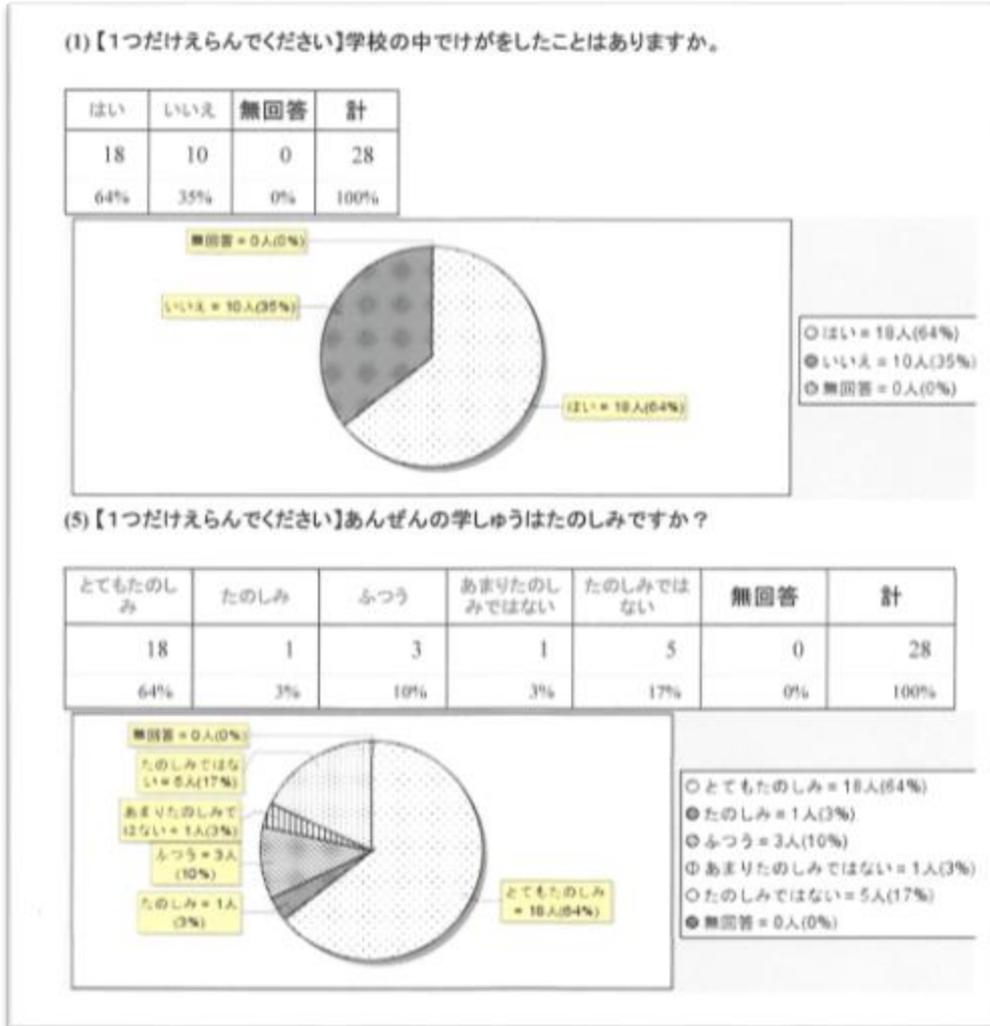
本研究では「安全に対する意識」「学校で安全に過ごすための意識」どちらの意識も高めることができた。事後アンケートでは「学校でのあんぜんについてこれからも気をつけていきたいですか。」という設問に対して、「気をつけたい」「とても気をつけたい」と答えた児童が93%いた。「これからの学校生活はあんぜんにすごせそうですか。」という設問にも「あんぜんにすごせそう」「とてもあんぜんにすごせそう」と答えた児童が89%であった。

今回の活動では児童の視点から危険箇所を集めた。1人1台あるクロムブックとその機能を用いたことで1人1人が思考しながら活動に取り組むことができた。本学年の児童が進級した際、第3学年の社会科で学ぶ「くらしを守る」で扱う、くらしと消防署とのかかわりや、第4学年で作成する「ハザードマップ」の予習として今回の取り組みは有効なものであったと考えられる（※6）。事後アンケートでも今後の安全に関する学習へ積極的に取り組みたいといった意見が見られた。さらに校内安全探検が終了したグループには、1年生と共に校内の危ないと思う場所を探すように指示をしたところ、多くのグループがクロムブックのカメラで記録をとっていた。1年生からは「学校で気をつけたい場所が分かった。」「普段の生活でケガをしないように意識していきたい。」という声を聞くことができた。アンケ

ート内でも危険個所での過ごし方にも意識を向けている様子(※7)がうかがえた。

課題としては情報共有の際、危ないと思う場所の感じ取り方が各児童によって違うことがあげられる。今回、「児童の視点で」という観点で学習を進めたため、ケガの経験がない児童はとりかかるまでに時間がかかっていた。そのような児童を含めて、全体で同様レベルで危険性を感じられる手立てを考える必要があると言える。

※1 選択式の設定問への回答



※6 3.4年生での学習について

③3.4年生でのあんぜんにかかわる学習について

いんしょうけんめいできる

※7 1年生へのアンケート

<p>②おしえてもらったあぶないばしょはどこですか？</p> <p>きょうしつ</p>	<p>②おしえてもらったあぶないばしょはどこですか？</p> <p>かいびん</p>
<p>③そのあぶないばしょではどのようにすごすとよいかかきましよう。</p> <p>はいらない</p>	<p>③そのあぶないばしょではどのようにすごすとよいかかきましよう。</p> <p>あぶない</p>